

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

本日、12月2日昼前(11時30分頃)から、十勝岳で火山性地震がやや増加しています。空振計や傾斜計など、他のデータに変化はなく、火山性微動は観測されていません。2006年以降、十勝岳では62-2火口直下浅部の膨張が続いています。現在のところ防災対応の必要はありませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

<噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)が継続>

○活動概況

・地震活動の状況(図1~2)

十勝岳では、2日11時30分頃から火山性地震が増加しており、2日18時までの地震回数(避難小屋東:山腹の観測点)は、107回(暫定)となっています。

震源はグラウンド火口の東側の深さ1km程度と推定されます。

なお、13時30分頃の地震(マグニチュード2.8(暫定値))では、山麓の白金温泉地区と十勝岳温泉地区で震度1程度の揺れを感じたとのことです。十勝岳で揺れを感じる地震を観測したのは、平成12年6月25日以来です。

火山性微動は発生していません。

・噴煙の状況

噴煙の状況は雲のため不明です。なお、空振計や傾斜計など、他のデータに変化はありません。

○活動評価

十勝岳の地震活動は概ね静穏に経過していますが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張は継続していますので、引き続き火山活動の推移に注意して下さい。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、北海道地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号 平23情使、第467号)。

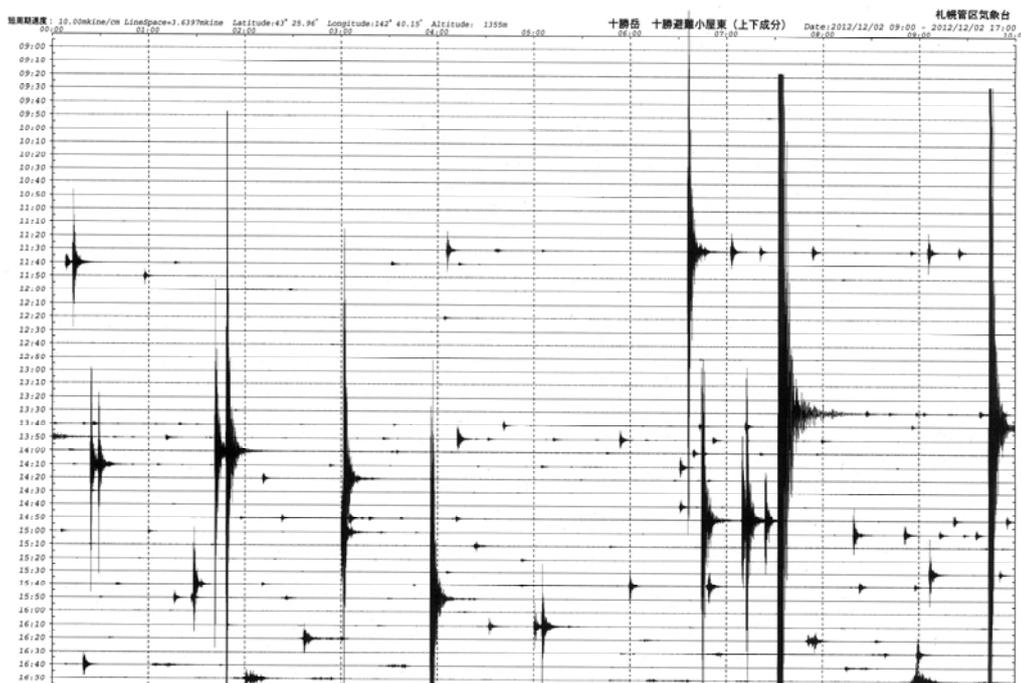


図 1 十勝岳 火山性地震の発生状況
・ 62-2 火口近傍の観測点 (避難小屋東) による

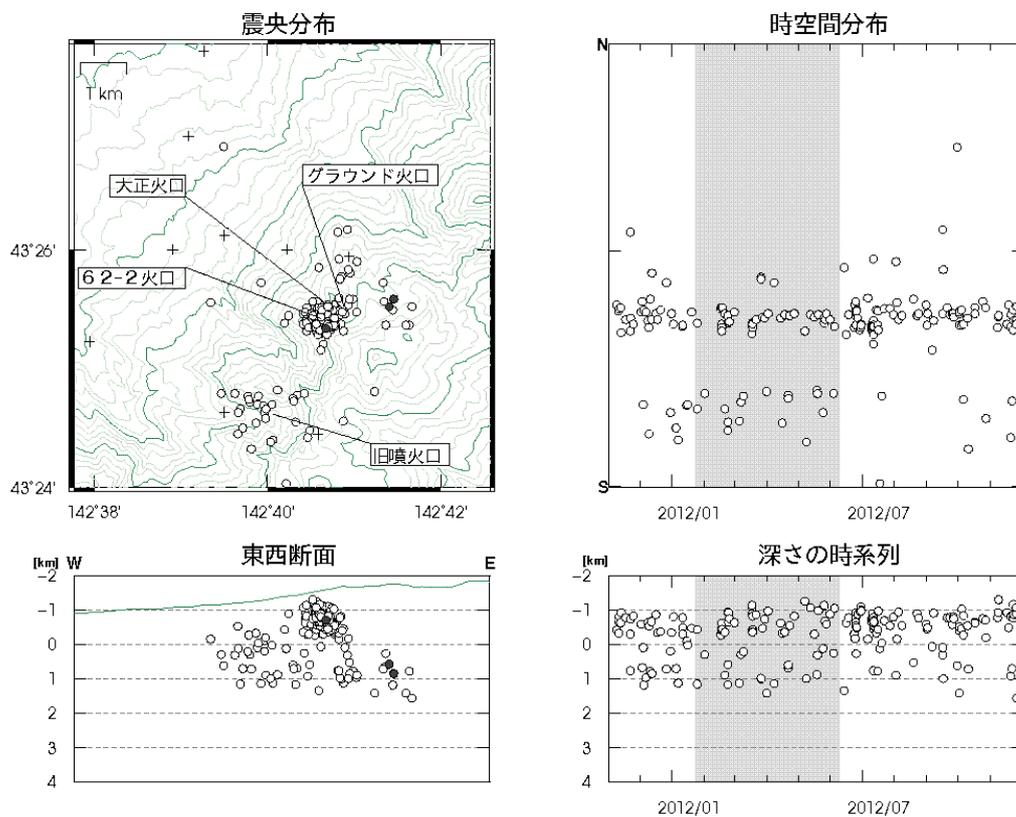


図 2 十勝岳 震央分布図
・ 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
・ ●印：2012年12月2日の震源

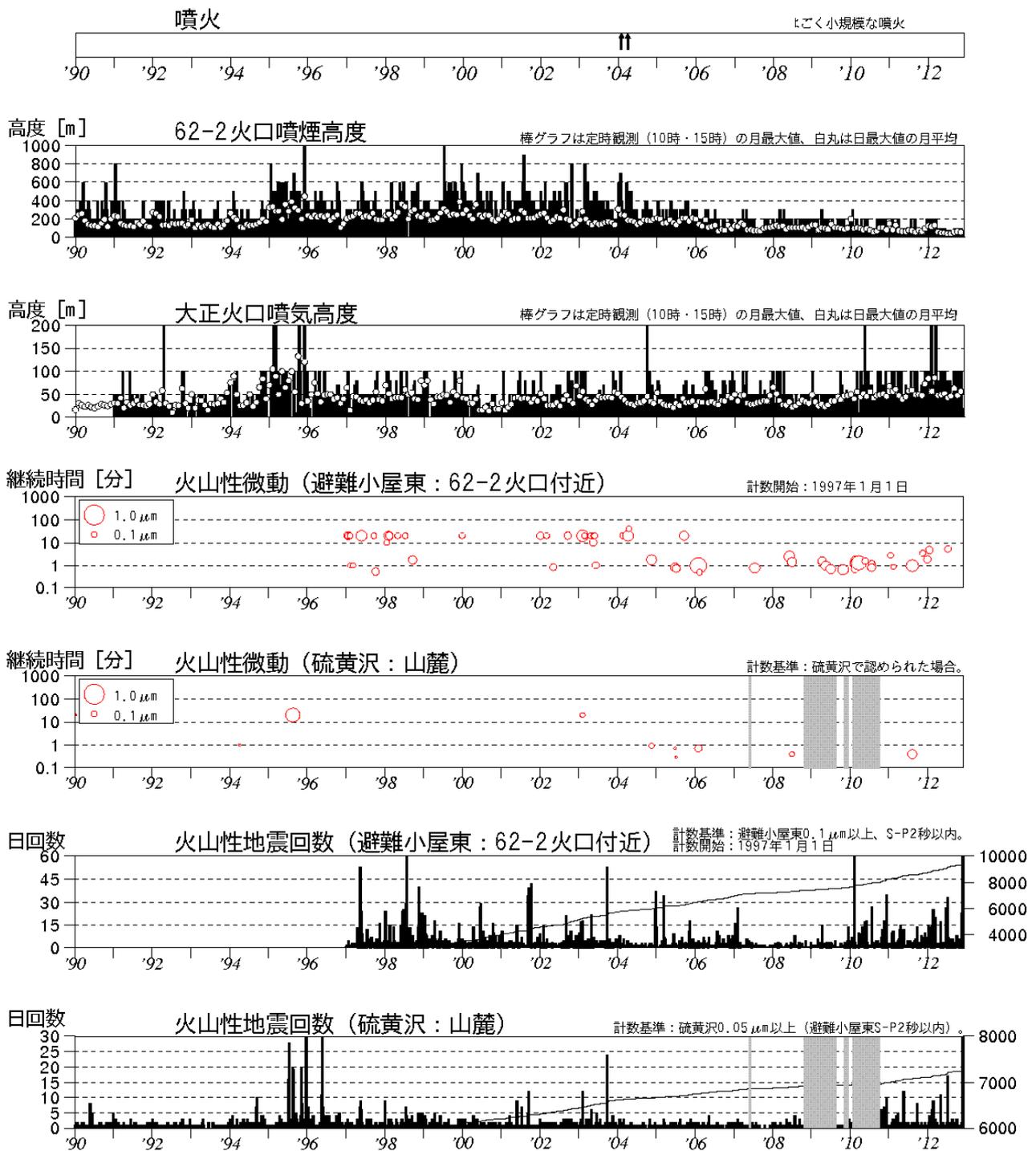


図 3 十勝岳 火山活動経過図 (1990年1月～2012年12月2日)

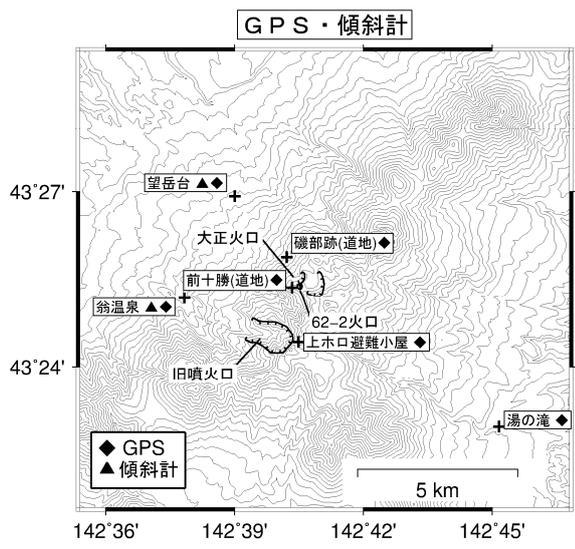
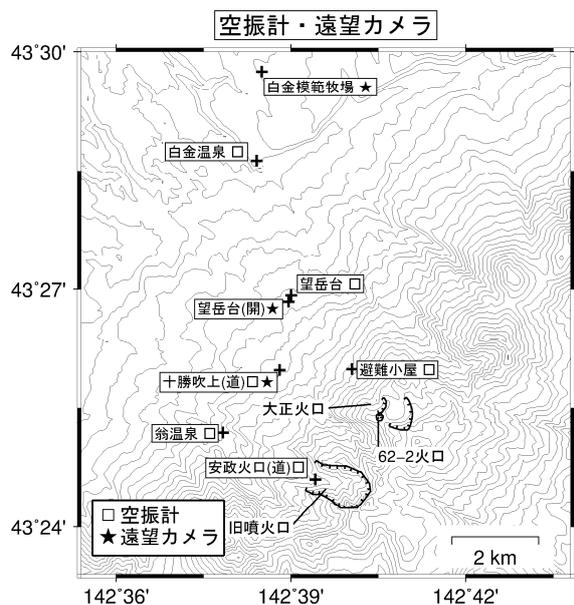
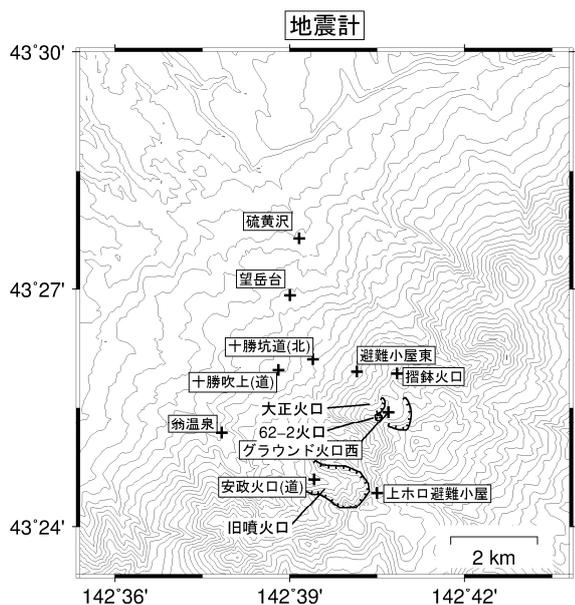


図 4 十勝岳 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (開) : 北海道開発局
 (北) : 北海道大学
 (道) : 北海道
 (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所